



はじめのいっぽ

令和4年度
6月号

令和4年5月31日

認定こども園

東野田ちどり保育園

東野田ちどりキッズ・庁舎内

江川 永里子

この三年近くコロナ禍で生活や仕事の環境が大きく変わりました。
ストレスを感じている人が多いはずで、ストレス＝「強度×持続時間」
という式で表すようです。

新型コロナウイルスは予想もしなかった規模で蔓延しいつまで続くか
分からないために人々の大きなストレスになっています。

今年は例年よりつばめのヒナが誕生するのが遅く感じています。

ようやく先月5羽のヒナが誕生しました。

健やかに成長します様に・・・

暑さに向う中でコロナ対策と熱中症対策を考え進んでまいります。



2022年もうすぐ巣立ち



～ アドラー より ～

さらに子どもの話を聴く

5.開いた質問を使う

質問には「はい」「いいえ」で答えられる＜閉じた質問＞と、「はい」「いいえ」だけでは答えられない＜開いた質問＞とがあります。このうち、開いた質問は、人の話を聞くときに、とても便利です。

開いた質問とは、5W1Hといって、「いつ？」「どこで？」「だれが？」「なにを？」「なぜ？」「どんなふうに？」というようなことばを使った質問です。ただし、このうちで「なぜ」はあまり使わない方がいいでしょう。

5W1Hの他に、「それで？」「それから？」「もう少し話してくれる？」というような言い方も、開いた質問の一種です。

また、「どういうことがあった？」「どう考えた？」「どう感じた？」「どうしようと思う？」というような開いた質問を続けて使うと、子どもを援助する効果が大きいことがあります。

6.子どもの考えを推量する

＜閉じた質問＞は、子どもの考えを聴くためよりは、むしろ、こちらの考えを子どもに伝えるために使います。たとえば、「あなたは～と考えているのかな？」とか「あなたは～と感じているのかな？」というように。

もしこのような推量が当たっていると、子どもは「親は私の仲間なんだ」と感じて勇気づけられるでしょう。あるいは、言われてはじめて自分がそんなふうに考えていることに気がつくかもしれません。そうすると、自分の考えをまとめることができます。

もしこのような推量がはずれていると、子どもは「違うよ」というでしょう。これは、子どものほんとうの考えを聴くきっかけになりますし、親子間の理解が深まるきっかけにもなります。

7.あなたの考えを伝える

子どもの話をじゅうぶんに聴いてからであれば、あなたの考えを伝えることもできます。できれば、「私の考えを言ってもいいかな？」と尋ねて、子どもが聞きたいと言ってから言うのがいいと思います。「聞きたくない」と言われれば、引き下がる勇気を持ってください。

子どもがあなたの意見を聞きたいと言ったときも、「それは～だ」と事実として言うよりも、「私は、それは～だと思う」というように、意見であることがわかるように言う方がいいと思います。